令和6年度	授　業　計　画　書						
学科・学年	鍼灸学科　3年	科目名	保健科学Ⅲ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	福本　隆男	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	スポーツ外傷・障害を予防するために必要な手技であるテーピングを、利用する場面や目的に応じて行えるようになることが目的である。			評価方法			
授業概要	治療家・トレーナーとして、テーピング頻度の高い足部を「基礎」と「応用」という観点から、巻けるようになることを目的とする。			中間試験　50% 期末試験　50% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	テーピングバイブル	使用器材	提示装置				

週	授　業　項　目　・　内　容	実施結果
第1週	足部についての解剖学的復習	
第2週	アンダーラップを巻いてみよう　巻くときの姿勢について	
第3週	テーピングについて	
第4週	ホワイトテープ　巻き方、切り方、はがし方、姿勢	
第5週	ホワイトテープ　アンダーラップ、アンカー、スターアップ	
第6週	ホワイトテープ　（　アンカー　～　スターアップ　）ホースシュー、サーキュラー	
第7週	ホワイトテープ　（　アンカー　～　サーキュラー　）、ヒールロック	
第8週	ホワイトテープ　（　アンカー　～　ヒールロック　）、フィギュアエイト	
第9週	タイム測定しながら、評価、足部のテーピング実演	
第10週	ホワイトテープ　テスト	
第11週	キネシオテープを使った足部へのアプローチの考え方、貼り方	
第12週	評価方法と経絡について	
第13週	評価　～　キネシオテープを貼る　～　評価	
第14週	タイム測定しながら、評価→実演→評価	
第15週	タイム測定しながら、評価→実演→評価	
授業外 学習指示等	1. 白衣で参加のこと。 2. 復習は、翌週の実技室にて授業開始前に行うこと。	

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科　3年	科目名	臨床医学各論Ⅲ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務経験6年	担当者	早野　大孝	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	現代医学的観点から疾患の疫学、病因、病態生理、検査、症状、治療法、予後を理解する。			評価方法			
授業概要	教科書をベースとした資料を作成、配布し講義を進行する。 習得した基礎医学から臨床医学の概要を理解する。			期末試験　85% その他（出席状況、授業態度等）15% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	臨床医学各論	使用器材	液晶プロジェクター、教科書及び配布資料				

週	授 業 項 目 ・ 内 容	実施結果
第1週	第9章　循環器疾患 1	
第2週	第9章　循環器疾患 2	
第3週	第9章　循環器疾患 3	
第4週	第9章　循環器疾患 4	
第5週	第9章　循環器疾患 5	
第6週	第9章　循環器疾患 6	
第7週	第10章　血液・造血器疾患 1	
第8週	第10章　血液・造血器疾患 2	
第9週	第10章　血液・造血器疾患 3	
第10週	第11章　神経疾患 1	
第11週	第11章　神経疾患 2	
第12週	第11章　神経疾患 3	
第13週	第11章　神経疾患 4	
第14週	第11章　神経疾患 5	
第15週	第11章　神経疾患 6	
授業外学習指示等	講義に関与する解剖学・生理学の復習。講義内容の復習。	

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科　3年	科目名	リハビリテーション医学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務経験6年	担当者	早野　大孝	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	リハビリテーション医学における基本的知識、各疾患におけるリハビリテーションを理解する。			評価方法			
授業概要	教科書をベースとした資料を作成、配布し講義を進行する。 リハビリテーションの基礎のうち障害学、疾患別リハビリテーションを理解する。			期末試験　85% その他（出席状況、授業態度等）15% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	リハビリテーション医学	使用器材	液晶プロジェクター、教科書及び配布資料				

週	授 業 項 目 ・ 内 容	実施結果
第1週	第1章　リハビリテーション総説 1	
第2週	第1章　リハビリテーション総説 2	
第3週	第1章　リハビリテーション総説 3	
第4週	第1章　リハビリテーション総説 4	
第5週	第1章　リハビリテーション総説 5	
第6週	第2章　各疾患のリハビリテーション（脳卒中のリハビリテーション 1）	
第7週	第2章　各疾患のリハビリテーション（脳卒中のリハビリテーション 2）	
第8週	第2章　各疾患のリハビリテーション（脊髄損傷のリハビリテーション 1）	
第9週	第2章　各疾患のリハビリテーション（脊髄損傷のリハビリテーション 2）	
第10週	第2章　各疾患のリハビリテーション（切断のリハビリテーション 1）	
第11週	第2章　各疾患のリハビリテーション（切断のリハビリテーション 2）	
第12週	第2章　各疾患のリハビリテーション（小児のリハビリテーション 1）	
第13週	第2章　各疾患のリハビリテーション（小児のリハビリテーション 2）	
第14週	第2章　各疾患のリハビリテーション（骨関節疾患のリハビリテーション 1）	
第15週	第2章　各疾患のリハビリテーション（骨関節疾患のリハビリテーション 2）	
授業外学習指示等	講義に関与する解剖学・生理学の復習。講義内容の復習。	

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科　3年	科目名	はり理論	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	太田　和宏	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	主にはりに関する基礎的知識、リスクマネジメント、治効メカニズムについて説明できる。			評価方法			
授業概要	教科書、および教科書をベースにしたプリント、スライドを用い講義を行う。			期末試験　100% ※出席状況等を加味する場合もある （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	はりきゅう理論	使用器材	プロジェクター・白板				

週	授 業 項 目 ・ 内 容	実施結果
第1週	第1章　鍼灸施術の意義	
第2週	第2章　鍼の基礎知識①	
第3週	第2章　鍼の基礎知識②	
第4週	第3章　刺鍼の方式と術式①	
第5週	第3章　刺鍼の方式と術式②	
第6週	第4章　特殊鍼法①	
第7週	第4章　特殊鍼法②	
第8週	第7章　リスク管理（はり）　①	
第9週	第7章　リスク管理（はり）　②	
第10週	第7章　リスク管理（はり）　③	
第11週	第8章　鍼灸治効理解に必要な基礎知識①	
第12週	第8章　鍼灸治効理解に必要な基礎知識②	
第13週	第8章　鍼灸治効理解に必要な基礎知識③	
第14週	第8章　鍼灸治効理解に必要な基礎知識④	
第15週	第8章　鍼灸治効理解に必要な基礎知識④	
授業外 学習指示等	1　講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、分からない所があればそれらを書き出しておくこと 2　復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること	

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科　3年	科目名	東洋医学臨床論はりきゅう（東洋医学編）Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	柊木　明子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 腎系統に関するⅠ～Ⅳの鍼灸療法が説明できる。 2. 全身の症候に関するⅠ～Ⅵの鍼灸療法が説明できる。			評価方法			
授業概要	2年次に引き続き、東洋医学概論の概念・解説を含みながら、主要症候の病因病機を理解し、鍼灸治療が行えるように、東洋医学領域の基礎知識の整理とともに、問題演習等を教授する。			期末試験　100% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	新版 東洋医学概論、 東洋医学臨床論（はりきゅう編）、配布プリント	使用器材	PC、液晶プロジェクター 、白板				

週	授 業 項 目 ・ 内 容	実施結果
第1週	治療各論　2-5　腎系統 Ⅰ．　脱毛症　（配布プリント参照）	
第2週	Ⅱ．　耳鳴り・難聴　（配布プリント参照）	
第3週	治療各論に対する鍼灸療法のまとめ・復習	
第4週	Ⅲ．　排尿障害　（配布プリント参照）	
第5週	Ⅳ．　ED（勃起障害）　（配布プリント参照）	
第6週	治療各論に対する鍼灸療法のまとめ・復習	
第7週	第3節　全身の症候 Ⅰ．　疲労と倦怠感　（配布プリント参照）	
第8週	Ⅱ．　発熱　（配布プリント参照）	
第9週	治療各論に対する鍼灸療法 まとめ・復習	
第10週	Ⅲ．　冷え　（配布プリント参照）	
第11週	Ⅳ．　のぼせ　（配布プリント参照）	
第12週	治療各論に対する鍼灸療法のまとめ・復習	
第13週	Ⅴ．　浮腫　（配布プリント参照）	
第14週	Ⅵ．　掻痒感（痒み）、肌荒れ、発疹　（配布プリント参照）	
第15週	治療各論に対する鍼灸療法のまとめ・復習	
授業外学習指示等	1　講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、判らない所があったらそれを書き出しておくこと。 2　復習は授業の重要事項をその日の内に振り返ること。	

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科　3年	科目名	東洋医学臨床論はりきゅう（西洋医学論）Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務経験6年	担当者	早野　大孝	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	臨床上、遭遇する頻度が高い疾患の西洋医学的な知識を理解する。 また、各疾患に対する現代西洋医学的な鍼灸治療法を学ぶ。			評価方法			
授業概要	教科書をベースとした資料を作成、配布し講義を進行する。 習得した基礎医学から臨床医学における各疾患を理解する。			期末試験　85% その他（出席状況、授業態度等）15% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	東洋医学臨床論（はりきゅう編）	使用器材	液晶プロジェクター、教科書及び配布資料				

週	授 業 項 目 ・ 内 容	実施結果
第1週	第2章 第2節 まとめ 1	
第2週	第2章 第2節 まとめ 2	
第3週	第2章　第3節　全身の症候（疲労と倦怠感 発熱 冷え）	
第4週	第2章　第3節　全身の症候（のぼせ 浮腫 掻痒感）	
第5週	第2章　第4節　その他の症候（顔面麻痺）	
第6週	第2章　第4節　その他の症候（歩行異常）	
第7週	第2章　第4節　全身の症候（口渇）	
第8週	第2章　第4節　全身の症候（出血傾向）	
第9週	第2章　第5節　女性特有の症候（概説 月経異常）	
第10週	第2章　第5節　女性特有の症候（性器出血）	
第11週	第2章　第5節　女性特有の症候（帯下 不妊症）	
第12週	第2章　第5節　女性特有の症候（つわり 骨盤位 乳汁分泌不全）	
第13週	第2章　第6節　小児特有の症候（概説 疳の虫 夜尿症 小児喘息）	
第14週	第2章　第7節　老年特有の症候（概説）	
第15週	第2章　第7節　老年特有の症候（認知症）	
授業外学習指示等	講義に関与する解剖学・生理学の復習。講義内容の復習。	

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科　3年	科目名	あはきの適応の判断	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	加藤　孝紹	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	日常臨床において遭遇する可能性のある症状が、鍼灸で適応可能か判断するための知識を修得する。			評価方法			
授業概要	配布プリントを中心にスライド等を用いて講義を行う。			期末試験　100% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	東洋医学概論・配布プリント	使用器材	PC、プロジェクター				

週	授 業 項 目 ・ 内 容	実施結果
第1週	適応判断のための弁証プロセス ①	
第2週	適応判断のための弁証プロセス ②	
第3週	四診合算における弁証判断　①	
第4週	四診合算における弁証判断　②	
第5週	四診合算における弁証判断　③	
第6週	臨床における弁証・配穴の適応判断　①	
第7週	臨床における弁証・配穴の適応判断　②	
第8週	臨床における弁証・配穴の適応判断　③	
第9週	臨床における弁証・配穴の適応判断　④	
第10週	臨床における弁証・配穴の適応判断　⑤	
第11週	臨床における弁証・配穴の適応判断　⑥	
第12週	臨床における弁証・配穴の適応判断　⑦	
第13週	臨床における弁証・配穴の適応判断　⑧	
第14週	臨床における弁証・配穴の適応判断　⑨	
第15週	まとめ	
授業外学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること	

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科　3年	科目名	臨床実習（前期①）	授業時期	前期	授業時数	45
実務経験	佐藤：鍼灸院で施術業務に従事中	担当者	佐藤　尚子	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	臨床前実技試験で学んだ事をもとにして、より臨床の現場に近い状況を想定し様々な治療技術の習得を目標とする。			評価方法			
授業概要	様々な疾患についての病態把握や治療方法を講義し、その実習を行う。附属鍼灸院で実際の患者に対する問診などの実習も行う。			レポート　40% 期末試験　60% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	プリント、経絡経穴概論、東洋医学臨床論（はりきゅう編）	使用器材	ベッド、プロジェクター、ディスポーザブル鍼、もぐさ				

週	授 業 項 目 ・ 内 容	実施結果
第1週	臨床実習①（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第2週	臨床実習②（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第3週	臨床実習③（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第4週	臨床実習④（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第5週	臨床実習⑤（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第6週	臨床実習⑥（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第7週	臨床実習⑦（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第8週	臨床実習⑧（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第9週	臨床実習⑨（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第10週	臨床実習⑩（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第11週	臨床実習⑪（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第12週	臨床実習⑫（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第13週	臨床実習⑬（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第14週	臨床実習⑭（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第15週	臨床実習⑮（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第16週	臨床実習⑯問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第17週	臨床実習⑰（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第18週	臨床実習⑱（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第19週	臨床実習⑲（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第20週	臨床実習⑳（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第21週	臨床実習㉑（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第22週	臨床実習㉒（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第23週	臨床実習㉓（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第24週	臨床実習㉔（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第25週	臨床実習㉕（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第26週	臨床実習㉖（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第27週	臨床実習㉗（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第28週	臨床実習㉘（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第29週	臨床実習㉙（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第30週	臨床実習㉚（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
授業外学習指示等	臨床に際し必要な知識（解剖学や経穴など）の再復習をすること。刺鍼練習台などで治療技術の研鑽に励むこと。	

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科　3年	科目名	臨床実習（前期②）	授業時期	前期	授業時数	45
実務経験	鍼灸院で施術業務に従事中	担当者	星野　英二	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	臨床前実技試験で学んだ事をもとにして、より臨床の現場に近い状況を想定し様々な治療技術の習得を目標とする。			評価方法			
授業概要	様々な疾患についての病態把握や治療方法を講義し、その実習を行う。附属鍼灸院で実際の患者に対する問診などの実習も行う。			期末試験　100% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等		使用器材					

週	授 業 項 目 ・ 内 容	実施結果
第1週	臨床実習①（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第2週	臨床実習②（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第3週	臨床実習③（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第4週	臨床実習④（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第5週	臨床実習⑤（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第6週	臨床実習⑥（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第7週	臨床実習⑦（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第8週	臨床実習⑧（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第9週	臨床実習⑨（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第10週	臨床実習⑩（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第11週	臨床実習⑪（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第12週	臨床実習⑫（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第13週	臨床実習⑬（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第14週	臨床実習⑭（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第15週	臨床実習⑮（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第16週	臨床実習⑯問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第17週	臨床実習⑰（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第18週	臨床実習⑱（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第19週	臨床実習⑲（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第20週	臨床実習⑳（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第21週	臨床実習㉑（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第22週	臨床実習㉒（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第23週	臨床実習㉓（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第24週	臨床実習㉔（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第25週	臨床実習㉕（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第26週	臨床実習㉖（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第27週	臨床実習㉗（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第28週	臨床実習㉘（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第29週	臨床実習㉙（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
第30週	臨床実習㉚（問診から鍼灸施術まで）、附属鍼灸治療院における研修	
授業外学習指示等	臨床に際し必要な知識（解剖学や経穴など）の再復習をすること。刺鍼練習台などで治療技術の研鑽に励むこと。	

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科　3年	科目名	総合領域Ⅰ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院にて施術業務に従事中	担当者	星野英二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1・2年で学習した解剖学を中心に生理学・臨床医学各論などの総復習を行う。 科目間の連携をはかり、鍼灸師として必要な知識を身につける。			評価方法			
授業概要	解剖学・生理学・臨床医学各論・東洋医学臨床論（西洋医学）等の分野で国家試験に出題された項目を重点的に振り返り、鍼灸師として必要な知識を深める。			期末試験　100% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	解剖学　臨床医学各論	使用器材	液晶プロジェクター				

週	授 業 項 目 ・ 内 容	実施結果
第1週	運動器系 ［.骨格系 ］	
第2週	運動器系 ［.筋系 ］	
第3週	人体の構成 ［ 細胞、組織、体表構造 ］（染色体異常）	
第4週	循環器系 ［ 血管系、心臓 ］（虚血性心疾患、心不全）	
第5週	循環器系 ［ 動脈系 ］（脳血管障害、大動脈解離）	
第6週	循環器系 ［ 静脈系 ］（門脈圧亢進症状）	
第7週	循環器系 ［ 胎児循環、リンパ系 ］	
第8週	呼吸器系 ［ 鼻腔、咽頭・喉頭、気管・気管支、肺 ］（肺癌）	
第9週	消化器系 ［ 消化管の基本構造、口腔、咽頭、食道 ］（食道癌）	
第10週	消化器系 ［ 胃、小腸 ］（胃癌）	
第11週	消化器系 ［ 大腸、肝臓、胆嚢 ］（潰瘍性大腸炎、クローン病、肝疾患）	
第12週	消化器系 ［ 胆嚢、膵臓、腹膜 ］（胆道疾患）	
第13週	泌尿器系 ［ 腎臓、尿路 ］（急性糸球体腎炎、腎盂腎炎、ネフローゼ症候群、膀胱炎）	
第14週	生殖器系 ［ 男性生殖器 ］	
第15週	生殖器系 ［ 女性生殖器、受精と発生 ］	
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること。	

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科　3年	科目名	総合領域Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	鍼灸院開設（経験年数14年）	担当者	堀之内　貴一	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	鍼灸臨床の鑑別や病態把握に必要な身体現象を把握し、説明できるようにする。			評価方法			
授業概要	身体現象を把握するためにこれまでに習った生理学をさらに深く学び、病態把握・理解に結びつける。			期末試験　100% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	生理学	使用器材					

週	授 業 項 目 ・ 内 容	実施結果
第1週	病態把握・理解　体液	
第2週	病態把握・理解　循環①	
第3週	病態把握・理解　循環②	
第4週	病態把握・理解　循環③	
第5週	病態把握・理解　呼吸	
第6週	病態把握・理解　消化器①	
第7週	病態把握・理解　消化器②	
第8週	病態把握・理解　吸収	
第9週	病態把握・理解　代謝①	
第10週	病態把握・理解　代謝②	
第11週	病態把握・理解　体温①	
第12週	病態把握・理解　体温②	
第13週	病態把握・理解　排泄①	
第14週	病態把握・理解　排泄②	
第15週	まとめ	
授業外学習指示等		

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科　3年	科目名	総合領域Ⅲ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	柊木　明子	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1　女性の身体と環境について理解を深める。 2　女性特有な症状を理解し、病態把握ができる。 3　女性の疾患に対して適切な鍼灸治療が行える。			評価方法			
授業概要	鍼灸治療の来院患者に多く見られる女性特有の症状について、東洋医学的に理解を深め、適切な治療法を教授する。			期末試験100% （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	新版 東洋医学概論、 東洋医学臨床論（はりきゅう編）、 配布プリント	使用器材	PC、液晶プロジェクター 、白板				

週	授 業 項 目 ・ 内 容	実施結果
第1週	治療各論　女性特有の症候 Ⅰ．概説　①　（配布プリント参照）	
第2週	②　（配布プリント参照）	
第3週	③　（配布プリント参照）	
第4週	Ⅱ．月経異常 ①　（配布プリント参照）	
第5週	②　（配布プリント参照）	
第6週	③　（配布プリント参照）	
第7週	治療各論に対する鍼灸療法のまとめ・復習	
第8週	Ⅲ．性器出血　（配布プリント参照）	
第9週	Ⅳ．帯下　（配布プリント参照）	
第10週	治療各論に対する鍼灸療法のまとめ・復習	
第11週	Ⅴ．不妊症　（配布プリント参照）	
第12週	Ⅳ．骨盤位（逆子）　（配布プリント参照）	
第13週	Ⅶ．つわり　（配布プリント参照）	
第14週	Ⅷ．乳汁分泌不全　（配布プリント参照）	
第15週	治療各論に対する鍼灸療法のまとめ・復習	
授業外学習指示等	1　講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、判らない所があったらそれを書き出しておくこと。 2　復習は授業の重要事項をその日の内に振り返ること。	

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	鍼灸学科　3年	科目名	総合領域Ⅳ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	太田　和宏	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 公衆衛生学・経絡経穴概論の知識の習熟を図り、臨床現場において適切な治療やアドバイスができる土台を作る。			評価方法			
授業概要	1. 講義プリントを配布し、スライドを用い授業を行う。 2. 演習問題を用い知識の定着を図る。			期末試験　100% ※出席状況等を加味する場合もある （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	経絡経穴概論・講義プリント	使用器材	プロジェクター・白板等				

週	授 業 項 目 ・ 内 容	実施結果
第1週	経絡経穴概論　概要の復習と演習①	
第2週	経絡経穴概論　概要の復習と演習②	
第3週	経絡経穴概論　概要の復習と演習③	
第4週	要穴の復習と演習①	
第5週	要穴の復習と演習②	
第6週	要穴の復習と演習③	
第7週	要穴の復習と演習④	
第8週	手・前腕部の筋肉、神経、経穴部位の復習と演習①	
第9週	手・前腕部の筋肉、神経、経穴部位の復習と演習①	
第10週	足部の筋肉、神経、経穴部位の復習と演習①	
第11週	足部の筋肉、神経、経穴部位の復習と演習②	
第12週	下腿部の筋肉、神経、経穴部位の復習と演習①	
第13週	下腿部の筋肉、神経、経穴部位の復習と演習②	
第14週	体幹部の筋肉、神経、経穴部位の復習と演習①	
第15週	体幹部の筋肉、神経、経穴部位の復習と演習②	
授業外学習指示等	1　講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおき、分からない所があればそれらを書き出しておくこと 2　復習は、特にその日の授業の重要事項をその日のうちに振り返ること	